

(西暦) 2016年12月1日

人間ドックで骨密度体組成検査を受けた方の診療情報を用いた 臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者	所属 <u>予防医療センター</u>
	職名 <u>講師</u>
	氏名 <u>高山 美智代</u>
	連絡先電話番号 <u>03-6910-3533</u>
実務責任者	所属 <u>予防医療センター</u>
	職名 <u>講師</u>
	氏名 <u>高山 美智代</u>

このたび当院では、人間ドックで骨密度体組成検査を受けた方の診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる受診者さんへの新たな負担は一切ありません。また受診者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない受診者さんは、その旨、高山 美智代 までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

2012年8月1日より2016年7月31日までの間に、予防医療センターにて人間ドックの検査として骨密度体組成検査を受けた20歳以上の方。ただし、韓国人と中国人以外の外国人は除きます。

2 研究課題名

人間ドック受診者における体組成と代謝異常に関する研究

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部・慶應義塾大学病院 予防医療センター

4 本研究の意義、目的、方法

社会の高齢化が急速に進む中で“健康長寿”（元気に長生き）が注目されています。健康長寿を達成するには、脳卒中や心臓病といった大病に罹らないことも大切ですが、それに加えて、筋肉や骨などの運動器を健康に保つことが重要であることが注目されています。

予防医療センターの人間ドックでは運動器の健康に着目して骨密度体組成検査を行っています。人間ドックの健診データをまとめて解析することで、体組成と糖尿病や脂質異常症といった代謝性疾患との関係や、体組成と食生活や運動などの生活習慣との関係を調べます。

本研究が、超高齢社会で問題となっている運動器症候群（いわゆるロコモ）^{注釈1)} やフレイル^{注釈2)} の予防策につながる基盤的研究になることが期待されます。

注釈1) 運動器症候群（ロコモティブシンドローム：通称ロコモ）とは、骨、関節、筋肉など運動器の障害によって要介護のリスクが高くなることです。加齢に伴う様々な運動器疾患（変形性関節症、骨粗鬆症、脊柱管狭窄症など）や、加齢による運動器の機能障害（筋力低下やバランス能力の低下など）が原因となります。ロコモは、寝たきりや要介護の主要な原因となり、メタボリックシンドロームや認知症と並んで、健康寿命を短縮する三大要因のひとつです。

注釈2) フレイルとは、加齢に伴うさまざまな機能変化や予備力低下によって健康障害をおこしやすい状態で高齢者によくみられる老年症候群です。何となく痩せた、歩行速度が遅くなった、筋力が落ちた、疲れやすいなどの身体的側面、閉じこもり、気力の低下、抑うつ気分などの精神心理的側面、独居や貧困などの社会的側面を広く含めた概念です。フレイル高齢者は要介護状態に陥る危険が高まります。

5 協力をお願いする内容

人間ドックの健診記録の提供をお願いします。健診記録には、問診情報、血液生化学データ・検尿データ、身体計測値、体組成値、握力、血圧などが含まれます。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日 ～ 2018年3月31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了後、倫理委員会で承認された一定の保管期間経過後に完全に抹消します。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

慶應義塾大学医学部・慶應義塾大学病院 予防医療センター 研究責任者 高山美智代
ダイヤルイン電話番号 03-6910-3533（月～金 8:30～17:00）

以上